

### 1. 学友会の紹介

だれでも人生の旅で帰属感が強く感じられるコミュニティに会えると思います。私にとって、今一番大切なコミュニティは秋田大学の学友会です。秋田大学の学友会とは中国駐日札幌領事館の元で管理される秋田地域の中国留学生の協会です。会員はもちろんすべて中国人で、しかも、入会制限などは一切ないです。秋田の中国人であれば、いつでも参加できる大家族のような存在です。そのために、このコミュニティには、秋田大学の学部留学生、私のような一年間の交換留学生、国際教養大学の留学生、様々な留学生がいます。

私は9月26日に秋田に来ました。そして、9月30日に初めて学友会の皆と出会いました。その日は中国の中秋節でした。一家団欒の祝日なので、さびしげに過ごすと思ったが、学友会の先輩たちは私たち新入生のために、歓迎会を開いてくれました。そこで家族のような暖かさを感じて、忘れられない異国の中秋節になりました。

ここから私が学友会との絆は結び始めました。私たちは日中友好交流会で新しい会長を決めました。新会長はこれから一年間の活動などを発表して会場に興奮させていました。私も学友会および秋田での新しい生活に大きな期待を持つようになっていました。その後、学園祭の時、多彩な留学生活への期待は幕があいて展開されました。その日皆は朝早く起きて、一緒に餃子を作ったり、屋台を出したり、客を引き付けるように大声でさけんだり、充実な一日でした。ひとつの目標を達成するために、皆で頑張っている姿に私は感動されました。

このように、私は学友会で皆と友達になって、大切な友情を得ている。私たちはさまざまな活動を通じて、深い絆を結んでいる。

### 2. インタビューの相手

今回私がインタビューしたのは、私たちのこの大家族の家長です。誰かという、会長を務めている今の学部生の王さんです、彼は秋田大学工学資源学部機械工学科の三年生で、秋田に来たのは4年目です。彼は去年学友会の副会長をやっていました、今年の10月6日で新会長になりました。真面目で着実な人です。

彼は私たちにいろいろと助けてくれました。例えば、私たちが秋田に来たばかりの時、市役所とかに遠いところには、いつも彼が車で私たちを連れてくれて、親切でした。私と友達がアルバイトの面接で拒絶されたとき、やさしく慰めてくれました。そして、学友会の温泉旅行活動に参加できなかった会員のために、ほかの日に朝早く会員たちを乗せて、秋田での旅行を代わりにしていました。

それだけでなく、彼の段取りで、私たちは多種多様な活動をしました、10月6日国慶節を祝うことや10月22日と23日二日間大学祭。11月4日山形県の温泉旅行とか、11月11日の田沢湖旅行とか、12月3日のカラオケや12月30日の忘年会など。たくさんの活動は留学してから初めての体験で、私たちにいい思い出を与えてくれました。

今回は学友会がいつも集うところ、国際交流会館のラウンジで彼をインタビューしました。ちょうど晩御飯の時なので、私たちはご飯を食べながら、コミュニティである学友会についていろいろと話しました。

### 3. インタビュー結果

まず私は会長にこんな質問をしました。

「会長、学友会はあなたにとってどのような存在ですか？」

質問された会長はちょっと困惑な表情をして、少しかんがえていました。すこし考えた後、会

長は明るい顔をして、こう答えてくれました。

「学友会は僕の息子ですよ！」

会長にとって、学友会は彼の息子のような存在ですか？こんな答えはなんと思いの外です！最初はちょっとびっくりしましたが、彼の解説によると、道筋が通っていると思うようになりました。彼は毎日この学友会がもっとよくなるようと真剣にかんがえています。一刻も油断できないと話しました。学友会にいろいろな世話を焼いてあげたいので、この学友会をすくすく育てあげたいので。ある意味で、自分の息子といっても過言ではないのです。

会長の詳しく説明で、手を抜けない奉献な会長に尊敬の念をいただきました。しかし、私に自分なりの理解があります。会長は私たちが見えないところに学友会をもっとよくするようにこつこつと努力しているのは偉いですが。学友会は私たちの共同の集団なので、困難にあったときはやっぱり皆で力をあわせて越えて行こうというのはよくないですか？会長は自分だけに負担をかけているのに対して、困難に共に直面こそ共に成長できて、絆も深く結んでいけると考えています。

そして、私は自分が一番知りたい質問をしました。

「学友会はどうやって成立しましたか？そして、目的はなんですか？」

学友会の起源について、会長も知らないなので、この問題は飛ばしました。それから、学友会の目的の問題について会長は気持ちよく楽しそうにこたえてくれました。まとめていると、学友会が成立の主な目的は、秋田地域の中国留学生を外国の生活にできるだけ早く慣れるように設立されました。学友会は秋田地域の中国留学生を結束して、一丸となるように働いています。ひとこと言うと、秋田の中国人に秋田地元の風土人情や美しい景色を一層よく知ってもらうような集団になりたくて、そして、こまった時はお互い様の風に助けうあう集団になりたいです。

彼の話聞いて、私は学友会がすでに最初の目標を完璧に完成したと話しました。皆はもうすでに友達になっています。深い絆を結んで、一緒に交流したり、笑ったり、興奮したりしています。それで、学友会には家にいるような気持ちを感じられます。

会長は安堵した表情をしていました、自分の今までの努力は無駄にならないと話しました。彼はまた言いました。

「大学祭の前夜、明日出す屋台のため、いろいろ準備しましたので、3時まで寝られなかった。」

着実なかれのことですが、このことに関して、彼は大学祭のあの朝、だれにもいわなかった。私たちは午前中餃子を作っただけで、このほんの少しの手伝いでも疲れ気味をかんじました。会長はあの日どんなに疲れたかは考えられない。

会長はきっとほかにも誰にも言わなかった苦労があるだろう。会長という思い責任を持ってから、彼は一人でどれほど苦労するだろう。ここまでインタビューすると、私はそうしても会長に言いたいことがあります、一人で必死にがんばらなくてもいいですよ、私たちがいるから、私たちは味方ですから。

最後に、私は会長にこう問いました。

「会長、満点は100だとすれば、自分は何点もらえると思う？自己評価してください」

会長は微笑みながら答えました。「70点だろう！」

謙虚な答えでした。私の考えによると、会長は満点に近いです。自分の考えを会長に言い出すと、会長はうれしいでしたが、私に「70点」の自己評価に説明してくれました。

「こういわれてはうれしくて、ありがたいんですが、本当は自分はまだまだだとはよくわかりますよ、例えば、温泉に行ったとき、スナックの数は足りなかったとか、往復するには5時間以上もかかったとか、私の準備不足のせいですよ」

会長の言葉に私は深く感心していました。彼は実に完璧な仕事をしていましたが、自分の少しの瑕にもきづいていて、改めように黙々と努力しています。学友会にはこんな責任感の強い会長がいてくれて、本当に安心して、幸運だと思いました。

#### 4. 学友会と私

秋田で留学している私たちは全国別々の地方からやってきて、同じ目標を持っています。それは円満な留学生生活をすごしたいです。そして、それを実現するために、秋田を始め日本の文化はよく体験したいです。その夢を支えてくれたのは、授業中は秋田大学国際課の先生方です、放課後は学友会の先輩たちです。学友会は夢を実現できるように一緒にかんばっている集団です。

学友会には私にとってかけがえない意義があると思います。なぜかと言うと。まず、会長には親しみが感じられる。同じ出身なので、他郷でお国なまりが聞こえてきて、旧友に会えるようにと心に深く感じています。そして、初めての留学生活に強い自信を注いでくれています、何があっても学友会の先輩は必ず一臂の力で助けてくれると信じますから。最後に、学友会には不思議な魔力があると思います。元々お互いに知らなくて、関連のない私たちは、秋田大学での留学生活のおかげで、友達になって、絆を結んでいます。これはこのコミュニティに隠れている高価な宝物だと思います。

学友会の皆は善良で、真心な人ばかりです、私たちはお互いに短い期間の付き合いで、深い絆を結びました。異国であろうと、他郷であろうと、学友会の留学生同士がいてくれて、何の困難でも直面できると思う。これからの留学生活もきっと充実だろうと思っています。

秋田に来る前に、未来に迷って、異国他郷である秋田の生活はきっと困難に満ちるだろうと思いました。最初は心細くて、なかなか慣れないでしたが。今秋田に来てから4ヶ月を経ている私はすでにここでの生活に慣れてしています。何の違和感もなく、そして、ますます秋田のことが好きになっています。よく考えると、これは学友会のおかげだと思う、学友会のいろいろな活動を通じて、秋田の人々の暖かい温情を感じさせますから。秋田の人々は皆素朴で善良な人だと感心されています。そして、秋田の美しさも感じさせています。学友会に参加しなければ、秋田への理解は今のようには深くはいかないだろう。

私はこれから、学友会でどうしていきたいかという、ここでの仲間と一緒に秋田での生活に協力しあって、時を刻んで、歩いてゆこうと決意しました。あと半年で秋田大学の留学生活は終わりますので、ここからの半年間は積極的に学友会の活動に参加したくて、皆ともっと仲良くなろうと思っています。半年後私たちは離れて、新しい留学生を迎える学友会はきっと新入生に忘れられない日本での文化や生活を体験させていく、笑い声に溢れる留学生活を与えてあげよう。学友会はもっと仲間同士で団結な集団になってほしいです、ここでの指折り数えるいいコミュニティになってほしいです。

#### 5. クラスへの感想

この授業は形式が面白いですが、今まで経験した授業の中で一番おもしろいです、グループのメンバーはみんなそれぞれ個性にあふれる。そして、授業を通して、ほかのクラスメートも私と同じようにコミュニティの大切さを改めて認識するではないか？多文化間への交流と理解はもっと深くなるだろう。留学生としてはやっぱり日本の方とほかの国の方ともっと深く知りたいです、この授業はこのような場を提供してくれて、とてもいいと思います。改善してほしい部分はグループとの係りは結んだが、ほかのグループの学生さんはまだよく知っていません。もっと交流の場を作ればいいと思います。